

女子学生の私室における耐久消費財（主に家具）の入手、廃棄に関する傾向と課題

岡山大教育 富士田 亮子

目的 女子学生の私室における生活用品の保有は他の年代に比べて多く、生活用品保持の問題が現れやすい。生活用品の入手から廃棄に至る要因を探り、生活用品保有の問題を住生活のあり方、住空間の構成要素を通して考えていこうとするものである。

調査方法 女子学生（広島市内短大在学学生）を対象に留め置きのアナウンス調査を1991年10月に行い、有効回収数は456票であり、回収率は91.0%である。調査内容は女子学生の私室取得時期、私室を構成し、床占有面積が大である耐久消費財（主に家具）の入手から廃棄の時期とその理由の分かるものとした。

結果 1 現在、所有率が5割を越える品目は学習机と椅子、本棚、洋服ダンス、整理ダンス、ベット、オーディオ、扇風機、ストーブである。これらは多様な生活行為に対応した品目である。2 ベット類の入手と廃棄時期をみるとベビーベットは入手、廃棄ともに乳幼児期であり、二段ベットの入手は乳幼児期・小学校の低学年で、廃棄は小学校高学年以降であり、ベットの入手は中学生以降で、廃棄は高校生以降であるが、その数は少なくなる。ベットは高学年になるほど専用化し、大型化する。3 学習机と椅子の入手は小学校入学時が多く、現在まで持ち続けられるか、大学生になって廃棄されている。4 タンス類についてみると、ベビーダンスの入手は乳幼児期であり、廃棄は乳幼児期、小学校低学年であり、整理ダンスの入手は小学校入学時・中学校入学時、廃棄は中学生以降であり、洋服ダンスの入手時期は一定しないが、廃棄は大学に入ってからであるが、その例は少ない。収納家具は自室を持ってから入手する事が多く、現在の私室の構成要素となっている。